

経営比較分析表（令和4年度決算）

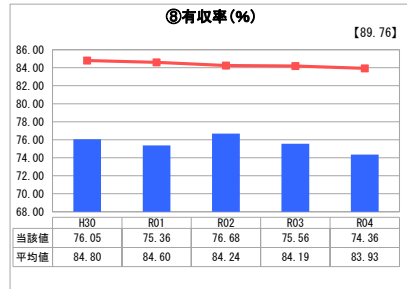
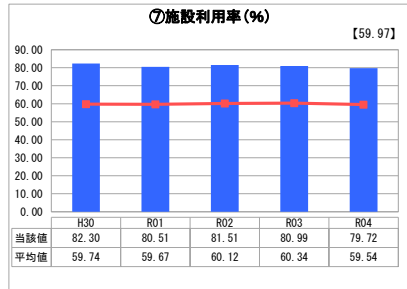
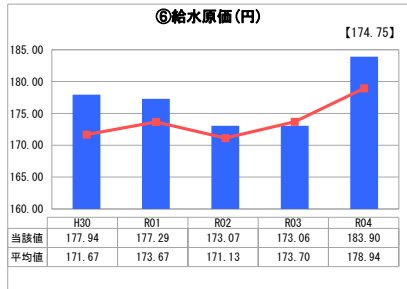
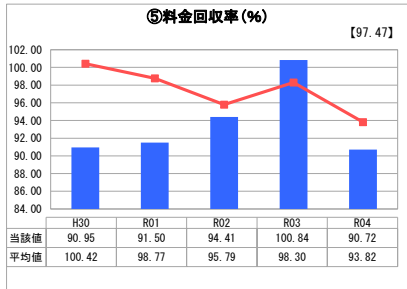
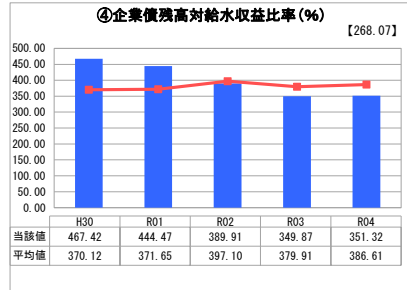
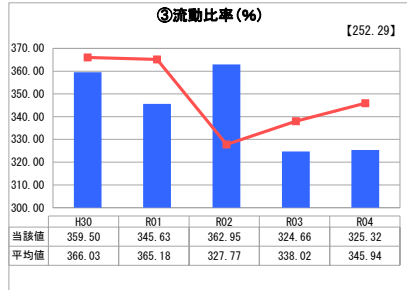
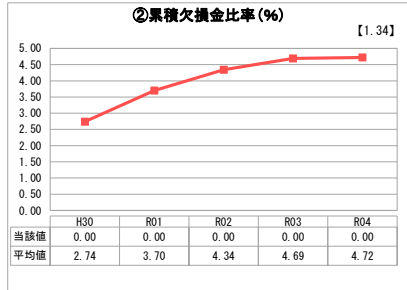
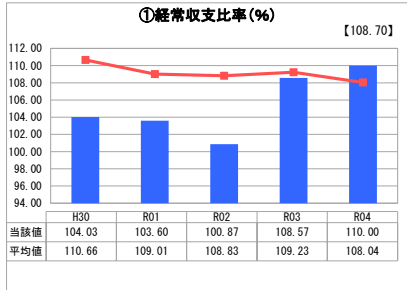
鳥根県 益田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	71.40	95.98	3,476	

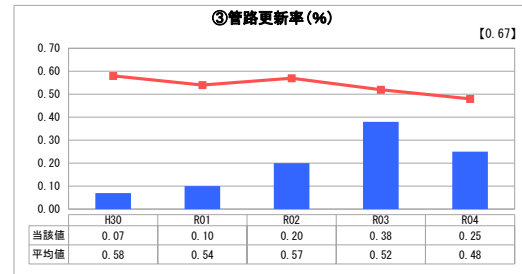
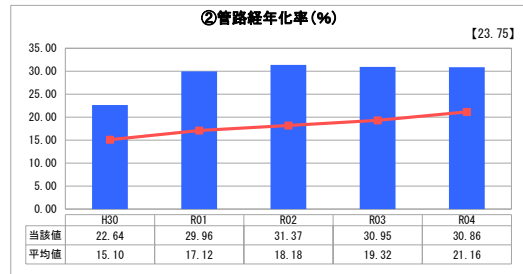
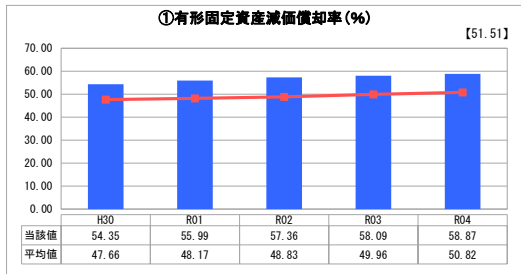
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,355	733.19	60.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
42,252	132.60	318.64

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
平成30年度の簡水統合の影響により、例年平均値を大きく下回っていたが、前年比での他会計補助金等の営業外収益の増により数値が上昇している。
- ②累積欠損比率
累積欠損金は発生していない。
- ③流動比率
流動比率が増加したが、流動資産、流動負債ともに前年度より減少しており、良好な状態を保っている。
- ④企業債残高対給水収益比率
簡水統合により引き続き企業債が影響し、類似団体を下回っていたが、令和2年10月から実施している料金増額改定等により数値は類似団体以下の良好な状態に改善している。
- ⑤料金回収率
給水原価が上昇したこと、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、水道料金の基本料金等減免増量を行ったことで供給単価が下がったため数値が上昇した。引き続き適切な料金収入の確保に努める。
- ⑥給水原価
簡水統合の影響及び修繕費等の増加に加え、昨年度電気料金の高騰により動力費が増加したため数値が上昇した。
- ⑦施設利用率
施設利用率は統合前より引き続き高い水準を保っており、有用に施設が活用され、今後給水人口減少等の影響も想定されるため、将来的に管路のダウンサイジング等の検討が必要となる。
- ⑧有収率
水道管更新や漏水調査等により有収率を上げるよう努めているが、類似団体を大きく下回っており、引き続き老朽化した水道管の更新を進める必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
平均値を上回り、数値も年々増加しており、施設の老朽化が進んでいる。
- ②管路経年率
簡水統合による施設の増加、法定耐用年数に達する管路が増加する年代に入り数値が上昇している傾向にある。
- ③管路更新率
耐震化の重要性、緊急度、管路の劣化状況等を踏まえて策定された施設耐震化更新計画に令和2年度より着手し、計画的に老朽施設の更新、耐震化を進めているが、類似団体より下回っているの引き続き改善していく必要がある。

全体総括

- ①有形固定資産減価償却率
平均値を上回り、数値も年々増加しており、施設の老朽化が進んでいる。
- ②管路経年率
簡水統合による施設の増加、法定耐用年数に達する管路が増加する年代に入り数値が上昇している傾向にある。
- ③管路更新率
耐震化の重要性、緊急度、管路の劣化状況等を踏まえて策定された施設耐震化更新計画に令和2年度より着手し、計画的に老朽施設の更新、耐震化を進めているが、類似団体より下回っているの引き続き改善していく必要がある。